

## 李前総統、馬氏に注文 「台湾は技術力必要」 対日重視強調 中台共同市場「無意味」

FujiSankei Business i. 2008/3/26

【台北＝河崎真澄】台湾の最大野党、中国国民党の馬英九前主席(57)が圧勝した22日の総統選を受けて、李登輝前総統(85)＝写真＝は台北市内で会見に応じ、「中国共産党は馬英九氏を支持してはいない」と述べ、中台間の関係が「兩岸統一」や「共同市場」に向けて一気に進む懸念はないとの見方を示した。また、「台湾は(中国より高度な)技術力が必要で、そのためにも技術提携など日本との関係を良くすべきだ」と、馬氏に対日関係の前進を強く促した。



馬氏の陣営は選挙戦を通じて、自由貿易協定(FTA)に近い中台間の共同市場構想や、空と海の直行便の1年以内の定期化、中国人の台湾観光解禁などの中台経済交流の拡大を公約に掲げてきた。だが、「中台共同市場は意味がなく、むしろ中国が反対する」と指摘。「中台だけではなく、日韓や東南アジア全体を包含する市場構想でなければ台湾経済はめっちゃくちゃになる」と危機感を示した。

さらに、「あらゆる機能が一つの半導体に組み込まれるシステム・オン・チップのような高度な技術が台湾には必要で、その面から日本との技術提携が欠かせない」と話した。また「日本企業の経営者は(工場など)現場を知っていることが強みだが、日本も(全体的に)技術力を取り戻さないといけない」として、資源に乏しい日台は、肥大する中国経済に対し技術力がカギとの考えを示した。

李氏は総統選後の週明け24日の台湾株式市場に注目していたとして、同日午前の寄り付きで6%以上の買い殺到となった市場展開は、「馬氏当選に経済界や投資家が期待感を示した結果」と受け止めたという。

フジサンケイビジネスアイの購読のお申し込みはフリーダイヤル0120-46-3150

Copyright(C)2008,FujiSankei Business i.

FujiSankei Business i on the webに掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。  
すべての著作権はフジサンケイビジネスアイまたは情報提供者に帰属します。